

番号	1	対象年齢層 (学年)	小学校1、2年生
----	---	---------------	----------

カテゴリ1 (大分類)	こども	カテゴリ2 (小分類)	こども一般
タイトル	人KENまもる君とあゆみちゃん 世界をしあわせに		難易度 初級
時間	45分	対象人数 の目安	学級35～40人程度
学習形態 (教室の設定)	教室型 (又は椅子なし型)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすればみんなが楽しく幸せに暮らすことができるかを考える。 ・いじめ、仲間外れなどをしない、させないための方法を考え、身に付ける。 		
教材の 種類	<p>①DVD「人KENまもる君とあゆみちゃん 世界をしあわせに」(約15分) ※ YouTubeによる視聴も可能 (https://www.youtube.com/watch?v=sGzN_3z_v8w)</p> <p>②内容 世の中の全ての人々が幸せになることを願い、旅をしている人KENまもる君とあゆみちゃん。 ある日、野菜村を訪れた二人は、アニマルタウンに届ける新鮮な野菜がマントお化けに襲われ、村人が 困っていることを知って、手助けをしようと出掛けたが、そのマントお化けの正体とは・・・。</p>		
備考	<p>使用教材：DVD「人KENまもる君とあゆみちゃん 世界をしあわせに」 (スクリーンで上映する場合は物語データ)</p> <p>使用物品：まもるくん、あゆみちゃんの人形 SOSミニレター (スクリーンで上映する場合はプロジェクター、スクリーン、パソコン)</p>		

過程	時間	ねらい	学習活動 (場面／行動／問い)	留意点
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員について ・人権について ・本日のテーマについて 	<p>はじめに</p> <p>(1)始まりの挨拶</p> <p>(2)人権擁護委員及び活動の紹介</p> <p>(3)「人権」について簡単なお話</p> <p>(4)本日のテーマ（いじめ）について、話の概要</p>	
展開	15分	人権啓発DVD鑑賞	<p>DVD「人KENまもる君とあゆみちゃん 世界をしあわせに」を上映する。</p> <p>※観にくい生徒がいないか確認する。プロジェクターの操作等、担任の先生にお手伝いいただく。</p>	
	10分	内容の振り返り	<p>登場人物の気持ちや行動を考えるために、次のような発問をし、いじめをなくすにはどうすればよいか考えさせる。</p> <p>〈発問例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジンさんとピーマンさんの心の中は？ 嫌われて悔しい、仲間外れにされて寂しい 嫌だ、悲しい、他の野菜をうらんだ <p>→人の心も同じであることを説明 仲間外れ、いじめ、いじわる、無視</p> <p>→黙って見ていることもいけない、勇気を出して「いけないよ」と言おう</p> <p>※板書作業を並行して行う。</p>	
まとめ	5分	本日のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆本日の内容の総論 みんなの周りには先生方・家族の方・友達がいる。 苦しいな、困ったなと思う心は相談すると気持ちが軽くなるよだから誰かに相談しよう。 ◆「子どもの人権 1 1 0 番」、「SOSミニレター」 	

番号	2	対象年齢層 (学年)	小学校1、2年生
----	---	---------------	----------

カテゴリ1 (大分類)	こども	カテゴリ2 (小分類)	こども一般
タイトル	ねずみきょう		難易度 初級
時間	45分	対象人数 の目安	学級35～40人程度
学習形態 (教室の設定)	教室型、島型		
ねらい	人はもともと信じやすく、思い込むと修正しにくくなるという性質を持っていることを認識した上で、物事を冷静になって考え、正しく判断することの大切さを学ぶ。		
教材の 内容	<p>①紙芝居「ねずみきょう」(約15分)</p> <p>②内容 ひとり暮らしのおばあさんが、旅のお坊さんに一晩泊めてほしいと頼まれた。おばあさんは、お経を知らなかったの、お坊さんを泊め、「お経を教えてください。」と頼んだ。ところが、このお坊さん、格好だけでお経を知らなかった。困ったお坊さんは、仏壇の前に座り、目の前に現れたねずみを見て、「オンチョロチョロ、デテコラレソウロウ」などとねずみの様子をお経のように唱え続けた。次の日、お坊さんは逃げるように立ち去った。</p> <p>それから、おばあさんは、それを本物のお経と信じ忘れないよう、毎日、「オンチョロチョロ、オンチョロチョロ」と唱えた。ある晩、泥棒が、おばあさんの家に忍びこんだところ、家の中からお経が聞こえてくる。「オンチョロチョロ、アナゾキソウロウ、オンチョロチョロ、デテコラレソウロウ」と。泥棒は、自分のことを言われていると思い、逃げていった。</p>		
備考	<p>使用教材：紙芝居「ねずみきょう」 (スクリーンで上映する場合は物語データ)</p> <p>使用物品：SOSミニレター (スクリーンで上映する場合はプロジェクター、スクリーン、パソコン)</p>		

過程	時間	ねらい	学習活動 (場面/行動/問い)	留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員について ・人権について ・本日のテーマについて 	<p>はじめに</p> <p>(1) 始まりの挨拶</p> <p>(2) 人権擁護委員及び活動の紹介</p> <p>(3) 「人権」について簡単なお話</p> <p>(4) 本日のテーマについて (話の概要)</p>	
展開	15分	紙芝居実演	<p>紙芝居「ねずみきょう」を実演する (又はスクリーンで上映)。</p> <p>※スクリーンを使用する場合には担任の先生に操作をお手伝いいただく。</p>	
	20分	内容の振り返り	<p>○紙芝居を見て思ったことや感じたことを振り返り、物事を冷静になって考え、正しく判断するために必要なことや正しく判断することの大切さを学んでもらうため、次のような発問をする。</p> <p>〈発問例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんは、なぜでたらめな言葉をお経であると思いついたのでしょうか？ ・おばあさんは、どのようにすれば、でたらめな言葉をお経であると思いつかなかったのでしょうか？ ・身近なことで、誤った思いつきをしたことがないかを聞いてみる。 	
まとめ	5分	本日のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本日の内容の総論 ・人はもともと信じやすく、思いつくと修正しにくくなるという性質を持っていることを認識した上で、物事を冷静になって考え、正しく判断することが大切である。 ・誤った判断によって、他人を傷つけてしまうことがある。 <p>◆ 「子どもの人権 110番」、SOSミニレターの紹介</p>	

番号	3	対象年齢層 (学年)	小学校1、2年生
----	---	---------------	----------

カテゴリ1 (大分類)	こども	カテゴリ2 (小分類)	いじめ
タイトル	ぐらぐらもりのおばけ		難易度 初級
時間	45分	対象人数 の目安	学級35～40人程度
学習形態 (教室の設定)	教室型		
ねらい	「いじめはいけないこと」をテーマとした簡易な物語を通じて、やさしい心、思いやりの心を学ぶ。		
教材の 内容	<p>①紙芝居「ぐらぐらもりのおばけ」(約15分)</p> <p>②内容 どこからか聞こえる誰かの泣き声を探して、まもるくとあゆみちゃんがぐらぐらもりに行くと、狐のコンタと狸のポンスケにいじめられているモグラのモグちゃんに出会う。モグちゃんはモグラだからという理由でモグラ叩きのいじめを受けている。まもるくとあゆみちゃんは、コンタとポンスケを少しこわがらせて、いじめをやめさせようと、モグラたちと協力してオバケに扮し、コンタとポンスケをこわがらせる。コンタとポンスケは森で一番のあばれ者である狼のガブリに助けを求め、ガブリがオバケと対峙することでオバケの正体がモグラたちであることを知る。コンタとポンスケは、いつも自分たちがモグラにいじめられているとガブリに訴えるが、ガブリはそのウソを見抜き、コンタとポンスケに「弱い者いじめやウソつきは許さない」と一喝する。皆に仲直りしてもらったため、まもるくとあゆみちゃんの提案により、森の仲間たちが輪になり、「大事なのちだよ、いじめることはいけない、いけない」と楽しく歌って踊り、ぐらぐらもりが楽しい歌の森となる。</p>		
備考	<p>使用教材：紙芝居「ぐらぐらもりのおばけ」 (スクリーンで上映する場合は物語データ)</p> <p>使用物品：まもるくん、あゆみちゃんの人形 SOSミニレター (スクリーンで上映する場合はプロジェクター、スクリーン、パソコン)</p>		

過程	時間	ねらい	学習活動 (場面／行動／問い)	留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員について ・人権について ・本日のテーマについて 	<p>はじめに</p> <p>(1) 始まりの挨拶</p> <p>(2) 人権擁護委員及び活動の紹介</p> <p>(3) 「人権」について簡単なお話</p> <p>(4) 本日のテーマについて、話の概要</p>	
展開	15分	紙芝居実演	<p>紙芝居「ぐらぐらもりのおばけ」を実演する（又はスクリーンで上映）。</p> <p>※スクリーンを使用する場合には担任の先生に操作をお手伝いいただく。</p>	
	20分	内容の振り返り	<p>紙芝居を見て思ったことや感じたことを振り返り、やさしい心、思いやりの心を学んでもらうため、次のような発問をする。</p> <p>〈発問例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのキャラクターが好きですか？ どのところが好きですか？ ・モグちゃんがかawaiiそうと思いましたか？ どうしてかawaiiそうだと思いましたか？ ・もしも自分がモグちゃんだったら、どのような気持ちになると思いますか？ ・友達がモグちゃんのようにいじめられていたら、どうしますか？ 	
まとめ	5分	本日のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本日の内容の総論 発表内容を踏まえて、なぜいじめがいけないのかの理解を深め、やさしい心、思いやりの心を持つことの大切さを伝える。 ・自分がいじめられたら嫌な気持ちになること、それは友達も同じ ・自分がやさしくされたら嬉しい気持ちになること、それは友達も同じ ・自分と友達の気持ちを考えてあげることが、思いやりの心、やさしい心 ◆ 「子どもの人権 110番」、SOSミニレターの紹介 	

番号	4	対象年齢層 (学年)	小学校1、2年生
----	---	---------------	----------

カテゴリ1 (大分類)	こども	カテゴリ2 (小分類)	いじめ
タイトル	白い魚とサメの子		難易度 初級
時間	45分	対象人数 の目安	学級35～40人程度
学習形態 (教室の設定)	教室型		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも必ず良いところがあることを知り、それぞれが持つ自分らしさに気付かせる。 ・他人との違いを認め合い、思いやりの心の大切さを学ぶ。 ・いじめを見て見ぬふりをしたり、一緒になってからかったりすることも、いじているのと同じことであることを気付かせる。 ・いじめのない学級づくりの実現に努めようとする態度を養う。 		
教材の 内容	<p>①紙芝居「白い魚とサメの子」(約15分)</p> <p>②内容 いつもいじめられてばかりの白い魚は、「ぼくなんていなくなってもいい、サメに食べられちゃってもいいかな……」と考えていた。そのことを初めて知ったお母さんに泣きながら「あなたがサメに食べられたら悲しい」と諭される。</p> <p>元気になった白い魚は、みんなと同じになれば友達になれると思い努力したがダメで、泣きながら眠ってしまった。こんな時、夢の中に現れた龍が「自分らしさを大切にしよう」と教えてくれた。</p> <p>ある日、嵐がやってきた。白い魚は勇気を出して、自分をいじめていた魚たちを助けた。</p> <p>自分らしさについて考えていた白い魚は、勇気と優しさを持つととても気持ちがいいし、たくさんの仲間ができることに気付いた。</p>		
備考	<p>使用教材：DVD「白い魚とサメの子」 (スクリーンで上映する場合は物語データ)</p> <p>使用物品：SOSミニレター (スクリーンで上映する場合はプロジェクター、スクリーン、パソコン)</p>		

過程	時間	ねらい	学習活動 (場面／行動／問い)	留意点
導入	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員について ・人権について ・本日のテーマについて 	<p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 始まりの挨拶 (2) 人権擁護委員及び活動の紹介 (3) 「人権」について簡単なお話 (4) 本日のテーマについて、話の概要 	
展開	15分	紙芝居実演	<p>紙芝居「白い魚とサメの子」を実演する（又はスクリーンで上映）。</p> <p>※スクリーンを使用する場合には担任の先生に操作をお手伝いいただく。</p>	
	17分	内容の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の気持ちを考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・白い魚の気持ち ・白い魚のお母さんの気持ち ○ 命の大切さ <ul style="list-style-type: none"> ・いなくなってもいい人はいるのか ・なぜ命は大切か ○ お互いの違いを認める <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさを大切に ・白い魚が仲間になるために考えたこと 	
まとめ	5分	本日のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本日の内容の総論 笑顔で仲良く生活することの重要性を教える。 →自分がされて嫌なことは、人にもしない。 →自分が言われて嫌なことは、人にも言わない。 ◆ 「子どもの人権 110番」、SOSミニレターの紹介 	

番号	5	対象年齢層 (学年)	小学校1、2年生
----	---	---------------	----------

カテゴリ1 (大分類)	こども	カテゴリ2 (小分類)	いじめ
タイトル	ずっとともだちで いたいから		難易度 初級
時間	45分	対象人数 の目安	学級35～40人程度
学習形態 (教室の設定)	教室型		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の心や体を傷つけることはしてはならないことであることを理解する。 ・相手の気持ちになって「思いやりの心」を持つことが必要であることに気付く。 		
教材の内容	<p>①紙芝居「ずっとともだちで いたいから」(約20分)</p> <p>②内容 三羽のカラスは、スズメと遊ぶ仲間のカラスがうらやましいのですが、それをうまく伝えることができず、スズメを「ちいさい＝弱いもの」として、理由なくからかったり、いじめたりします。スズメは無垢な心でともだち関係を築いているのに、理由のないいじめに悩み傷つきます。 しかし、「ずっと、ともだちでいたい」という思いから、フクロウ先生の励ましもあって、自分の気持ちをはっきりと伝えます。 また、三羽のカラスは、たとはいじめの認識がなく遊びの延長であったとしても、他者の心や体を傷つけることは「絶対にしてはならないこと」であり、相手の気持ちになって思いやりの心を持つことが必要であることに気付きます。</p>		
備考	<p>使用教材：紙芝居「ずっとともだちで いたいから」 (スクリーンで上映する場合は物語データ)</p> <p>使用物品：SOSミニレター (スクリーンで上映する場合はプロジェクター、スクリーン、パソコン)</p>		

過程	時間	ねらい	学習活動 (場面／行動／問い)	留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員について ・人権について ・本日のテーマについて 	<p>はじめに</p> <p>(1)始まりの挨拶</p> <p>(2)人権擁護委員及び活動の紹介</p> <p>(3)「人権」について簡単なお話</p> <p>(4)本日のテーマについて、話の概要</p>	
展開	10分	紙芝居実演① (前半)	紙芝居「ずっとともだちでいたいから」前半を実演する。	
	5分	内容の振り返り① (前半)	<p>他者の心や体を傷つけることはいじめであり、いけないことであることを理解させるために、グループに分かれ、登場人物の行動などに対しての自分の気持ちについて話し合う。</p> <p>〈話し合い例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までのお話の中で、悲しい、怖いという気持ちになった場面はありましたか？また、それはどの場面ですか？ ・軽い気持ちや遊びであれば、友だちにいじわるしてもいいのでしょうか？ 	
	10分	紙芝居実演② (後半)	紙芝居「ずっとともだちでいたいから」後半を実演する。	
	10分	内容の振り返り② (後半)	<p>「思いやりの心」を持つことの必要性を気付かせるために、グループに分かれ、登場人物の行動などに対しての自分の気持ちについて話し合う。</p> <p>〈話し合い例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲直りしたとき、カラスはどんな気持ちだったのでしょうか？ ・なぜカラスたちはカータンの家を一緒に作り直そうとしたのでしょうか？ ・困ったことがあったとき、皆さんだったらどうしますか？ 	
まとめ	5分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆本日の内容の総論 みんなと仲良くするために、お互い思いやりの心を持つことが重要であり、それを行動で表すことの大切さを伝える。 ◆「子どもの人権110番」、SOSミニレターの紹介 	

番号	6	対象年齢層 (学年)	小学校1、2年生
----	---	---------------	----------

カテゴリ1 (大分類)	こども	カテゴリ2 (小分類)	こども一般
タイトル	しろいぞうのはなし		難易度 初級
時間	45分	対象人数 の目安	学級35～40人程度
学習形態 (教室の設定)	教室型		
ねらい	私たちの周りには様々な個性（違い）を持っている人がいて、それぞれの個性を認め合うことによって、みんなが幸せに暮らすことのできる社会（共生社会）を作ることが大切であることを学ぶ。		
教材の内容	<p>①紙芝居「しろいぞうのはなし」（約15分）</p> <p>②内容 南の国の森のゾウの村には、大きなゾウ、小さなゾウ、鼻の長いゾウ、鼻の短いゾウ、大人のゾウ、お年寄りのゾウ、こどものゾウなど様々なゾウが暮らしていました。やさしくておとなしい白いゾウの「しろくん」は、かけっこやおしゃべりが苦手。みんなと遊ばなくて、すぐ泣きべそをかきます。でも、みんな「しろくん」となかよく暮らしていました。</p> <p>ある日、森が大火事になりました。かすかな匂いの違いの分かる「しろくん」がいち早く火事に気づき、おかげで仲間のゾウはみんな無事に逃げることができました。でも、「しろくん」を助けようとしたお母さんゾウが焼け死んでしまいました。そのような中、「しろくん」は、立派な若者になり、においを嗅ぎ分ける力で仲間を助け、村長に選ばれることになりました。</p>		
備考	<p>使用教材：紙芝居「しろいぞうのはなし」 (スクリーンで上映する場合は物語データ)</p> <p>使用物品：SOSミニレター (スクリーンで上映する場合はプロジェクター、スクリーン、パソコン)</p>		

過程	時間	ねらい	学習活動 (場面/行動/問い)	留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員について ・人権について ・本日のテーマについて 	<p>はじめに</p> <p>(1) 始まりの挨拶</p> <p>(2) 人権擁護委員及び活動の紹介</p> <p>(3) 「人権」について簡単なお話</p> <p>(4) 本日のテーマについて、話の概要</p>	
展開	15分	紙芝居実演	<p>紙芝居「しろいぞうのはなし」を実演する（又はスクリーンで上映）。</p> <p>※スクリーンを使用する場合には担任の先生に操作をお手伝いいただく。</p>	
	20分	内容の振り返り	<p>「しろいぞうのはなし」を聞いて、思ったことや感じたことを振り返り、様々な個性を認め合う大切さを学ぶために、次のような発問をする。</p> <p><発問例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃の白いゾウのしろ君は、どんなこどもでしたか。 ・弱虫でみんなとうまく遊べないしろ君や友だちに対し、村長さんは何と言いましたか。 ・森の大火事に一番最初に気が付いたのは誰でしたか。 ・しろ君の得意なことは何ですか。 ・立派な若者になったしろ君が村長に選ばれたのはどうしてでしょうか。 	
まとめ	5分	本日のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本日の内容の総論 発表の内容を踏まえて、誰にでもみんなと違った良いところがあり、それぞれの違いを認め、その良さを生かして共に助け合い、仲良く生活すること（共生社会）の大切さを伝える。 ◆ 「子どもの人権 110番」、SOSミニレターの紹介 	

番号	7	対象年齢層 (学年)	小学校1、2年生
----	---	---------------	----------

カテゴリ1 (大分類)	こども	カテゴリ2 (小分類)	こども一般
タイトル	けんかのあとのごめんなさい		難易度 初級
時間	45分	対象人数 の目安	学級35～40人程度
学習形態 (教室の設定)	教室型		
ねらい	<p>子りすと子ぎつねの気持ちを考えながら、友達を思い合うことの大切さを学ぶ。 もし、友達とけんかをして、すぐに仲直りをするのが大切だということを学ぶ。</p>		
教材の 内容	<p>①紙芝居「けんかのあとのごめんなさい」(約10分)</p> <p>②内容 子うさぎと子りすと子ぎつねが森にやってきました。子りすと子ぎつねは、遊び方のことで大げんかとなり、子うさぎを置き去りにしたまま、それぞれどこかに行ってしまいました。 その夜、子うさぎは、お母さんに字を教わりながら、大げんかの話をしました。お母さんは、みんなに字を教える先生です。お母さんと子うさぎは、子りすと子ぎつねに早く仲直りしてほしいと思いました。 次の朝、子りすが、子うさぎのお母さんのところにやってきました。「ごめんなさい」の字を紙に書いてもらいたくて、紙と鉛筆を持ってきたのです。子うさぎのお母さんと話をした子りすは、ほっとして帰りました。 その後、子ぎつねもやってきて、子りすと同じことを言って、「ごめんなさい」の字を紙に書いてもらいました。 紙を持って謝りに行こうとした子りすと子ぎつねは、ばったりと鉢合わせになり、「ごめんなさい」と書いた紙を渡し合って、仲直りをすることができました。 子りすと子ぎつねがそろって、子うさぎのところへやってきた様子を、子うさぎのお母さんはうれしそうに見ていました。</p>		
備考	<p>使用教材：紙芝居「けんかのあとのごめんなさい」 (スクリーンで上映する場合は物語データ)</p> <p>使用物品：SOSミニレター (スクリーンで上映する場合はプロジェクター、スクリーン、パソコン)</p>		

過程	時間	ねらい	学習活動 (場面/行動/問い)	留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員について ・人権について ・本日のテーマについて 	<p>はじめに</p> <p>(1)始まりの挨拶</p> <p>(2)人権擁護委員及び活動の紹介</p> <p>(3)「人権」について簡単なお話</p> <p>(4)本日のテーマについて、話の概要</p>	
展開	10分	紙芝居実演	<p>紙芝居「げんかのあとのごめんなさい」を実演する（又はスクリーンで上映）。</p> <p>※スクリーンを使用する場合には担任の先生に操作をお手伝いいただく。</p>	
	25分	内容の振り返り	<p>登場人物の気持ちを考えることを通じて、友達と仲良くすることの大切さを育む。</p> <p><発問例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子りすと子ぎつねが大げんかした日の夜、子うさぎはお母さんとのような話をしたでしょうか。 ・次の日の朝早く、子りすと子ぎつねは、なぜ子うさぎのお母さんのところにやってきたのでしょうか（人権擁護委員はお母さん役になりきり、役割演技をする。）。 ・ばったりと鉢合わせした子りすと子ぎつねは、どのような会話をしたのでしょうか（役割演技で会話させる。）。 ・子りすと子ぎつねがそろって子うさぎのところにやってきたとき、それぞれどのようなことを言ったでしょうか。 	
まとめ	5分	本日のまとめ	<p>◆本日の内容の総論</p> <p>登場人物から学んだことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子りすと子ぎつね 早く仲直りしたくて解決方法を考え、子うさぎのお母さんに字を教わりに行き、謝ったこと →友達を思う心 ・子うさぎ 早く仲直りしてほしいと願い、大げんかのことをお母さんに話したこと →友達を思う心 ・子うさぎのお母さん 誰からの相談にも乗り、心配なことや困っている問題を解決していく態度をやさしく教えてくれること <p>◆「子どもの人権110番」、SOSミニレターの紹介</p>	